

## 令和2年度 第1回緑高運営協議会 議事録

1 日 時 令和2年7月【書面開催】

2 会 場 ー

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
重田 諭吉(会長)	横浜市立大学名誉教授	
志村 美佳(副会長)	後援三徳会（本校保護者後援会）元理事長	
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会総務担当	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	

4 内 容

(1) 活動報告

(2) ご意見、ご質問等

ア 第1回緑高運営協議会資料の内容について

【各委員より】

- 資料に関して、取り組み内容・達成状況についてよく書かれている。よりわかりやすくする次のステップとしては、目標値に対する達成度を数値もしくは達成度段階（5段階評価など）表現できるとよい。
- 学力向上進学重点エントリ一校は、明確な数値目標があるように思う。それぞれの項目で、緑高の強み弱みを把握して、弱い項目の中で必要かつ可能な対策を実施していく、または、重点課題を決めて取り組む等ができるとうい。
- 全体として緑高の特色がわかりにくく残念。緑高には今までの特色検査や学びの奨励基金などの積み重ねがあるので「論文作成能力」「人に伝える力」といった言葉をグランドデザインに入れて、国語力・論文力・表現力の育成に力を入れることを前面に押し出してはどうか。例えば、現在実施の「総合的な学習（探究）の時間」の発表だけでは他校と大差はないので、それとは別に、論理の組み立て方、表現の仕方などを具体的・技術的・個別に複数回の指導。その際に論じる内容には、疑いをはさむ余地のない理数系の理論を採用して、内容の指導ではなく論文構築の訓練をするなどはどうか。理数教育推進を意識しながら国語系と融合を図るといふ、緑高ならではの視点に立った授業内容を期待する。
- 教育に関して多方面からアプローチしている様子が見えてくる。
- 緑高は社会のリーダーたる人材を育成する役割を担っていると考える。各界で活躍してもらうためには、その前段階として大学選択や職業選択の幅を狭めない、加えて知

的欲求を充たす広範な知識習得が必要ではないかと思う。有用でかつ有能な人材の育成に期待する。

- ・ 令和元年度学校評価報告書実施結果については、校内評価、学校関係者評価、総合評価ともに成果と課題、改善方策等が適切に記載されている。課題、改善方策が具現化していただきたい。
- ・ 今年度の教育課程をどのように再編成していくのかは課題であると思う。
- ・ 総合的に取組みが掲げられており、学校運営の推進を期待する。その中で創立 100 周年という機会を生かした指導も期待する。
- ・ 学校ミッション、教育目標、課題、方策が明確であり令和元年度の大学等・合格状況にその成果がみられる。これは、学校長以下教職員の皆さんの運営執行力の質の高さが貢献している。感謝し、敬意を表す。学力向上進学重点プロジェクトチーム及び理数教育推進プロジェクトチームの組織的取組みに関してもその積極的推進と成果に期待している。

## イ その他の本校の教育活動について

### 【各委員より】

- ・ コロナ禍の学校運営、大変な苦勞をして授業等を実施されていることと思う。先生方の心勞も積み重なっていることと思うが、健康に留意しつつ、学生のケアをよろしくお願ひしたい。
- ・ 娘が入学したころの劇団四季のチケット争奪方法が、娘のクラスでは、良い席で見たい理由の論文提出。結果には文句は言わないとの条件付きであった。これが緑高だねと親子で喜んだものであった。特色検査も変わり先生方も変わりこういう路線がなくなるのは残念。
- ・ コロナ対策への安心感は、在校生にとってはもちろん、受験生を集める上でも重要事項。すでにあるトイレの自動水栓はとても良い施設なので、加えてハンドソープも自動で出てくるようになると手洗い自体への安心感が飛躍的に増す。三徳等後援組織の力も借りて、検討いただきたい。
- ・ コロナ禍という暗中模索の状況だが、学校関係にとどまらず、地域の支援を積極的に活用するように。
- ・ 年初来、コロナウイルス感染拡大の影響で学校運営に大いに支障をきたしていると思われる。想定外のことばかりで苦勞が多いかと思うが、安全第一で日々の運営にあたっていただきたい。
- ・ 新型コロナに対する警戒は必要であるが、やみくもに恐れることだけでは何も生み出すことはできない。正しく警戒してウィズコロナ（コロナと共存）、工夫をしながら教育活動を止めないようにしていただきたい。
- ・ “ポストコロナ”の学校の姿をイメージし、ICTの活用やオンライン授業のあり方を考えていく必要があると思う。
- ・ 困難な事態ではあるが、できることを着実にやり、次のステージに備えてほしい。その中で、後援組織（同窓会）としてできる支援について、引き続き検討協議させていただきたい。
- ・ グランドデザインの具体的、的確な執行が常に改善を伴って運営されていけば（PDCA

の徹底)、全国的にも大変すばらしい評価を受ける高校になると確信している。

- ・ 2019年（令和元年）の出生数は、865,234人。2016年から4年連続で100万人を割り込み少子高齢化が予想以上のスピードで進行している。日本社会への影響は色々な分野に大きなインパクトを与えると予想される。幼稚園から大学まで、さらには学習塾まで含めた教育の領域においても生き残りをかけた熾烈な競争が始まっていると思われる。

#### ウ 今後の緑高運営協議会の日程や議題について

##### 【各委員より】

- ・ 会議は“3密”には当たらないかと思われるので、寒くなる前に1回開催されてもよい。早く、新型コロナに対する薬を含む明確な治療方針・ワクチンが開発され、インフルエンザのような対応ができるようになることを祈っている。
- ・ “ポストコロナ”の学校のあり方を議題にしていただけるとよい。
- ・ 協働と連携について  
後援三徳会・牧陵会・地域による学校教育のサポート体制
- ・ 学校創立100周年に向けて  
記念事業等の進行状況、現状課題、対応策の確認・検討等

以上